

ヘブライ人への手紙

Hebrews

新約聖書

第1章

- 1 神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られましたが、
- 2 この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。神は御子を万物の相続者と定め、御子によって世界を造られました。
- 3 御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。御子は罪のきよめを成し遂げ、いと高き所で、大いなる方の右の座に着かれました。
- 4 御子が受け継いだ御名は、御使いたちの名よりもすばらしく、それだけ御使いよりもすぐれた方となりました。
- 5 神はいったい、どの御使いに向かって言われたのでしょうか。「あなたはわたしの子。わたしが今日、あなたを生んだ」と。またさらに、「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる」と。
- 6 そのうえ、この長子をこの世界に送られたとき、神はこう言われました。「神のすべての御使いよ、彼にひれ伏せ。」
- 7 また、御使いについては、「神は御使いたちを風とし、仕える者たちを燃える炎とされる」と言われましたが、
- 8 御子については、こう言われました。「神よ。あなたの王座は世々限りなく、あなたの王国の杖は公正の杖。
- 9 あなたは義を愛し、不法を憎む。それゆえ、神よ、あなたの神は、喜びの油で、あなたに油を注がれた。あなたに並ぶだれよりも多く。」
- 10 またこう言われました。「主よ。あなたははじめに地の基を据えられました。天も、あなたの御手のわざです。
- 11 これらのものは滅びます。しかし、あなたはいつまでもながらえられます。すべてのものは、衣のようにすり切れます。
- 12 あなたがそれらを外套のように巻き上げると、それらは衣のように取り替えられてしまいます。しかし、あなたは変わることがなく、あなたの年は尽きることがありません。」
- 13 いったいどの御使いに向かって、神はこう言われたのでしょうか。「あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで」と。
- 14 御使いはみな、奉仕する霊であって、救いを受け継ぐことになる人々に仕えるために遣わされているのではありませんか。

第2章

- 1 こういうわけで、私たちは聞いたことを、ますますしっかりと心に留め、押し流されないようにしなければなりません。
- 2 御使いたちを通して語られたみことばに効力があり、すべての違反と不従順が当然の処罰を受けたのなら、
- 3 こんなにすばらしい救いをないがしろにした場合、私たちはどうして処罰を逃れることができるでしょう。この救いは、初めに主によって語られ、それを聞いた人たちが確かなものとして私たちに示したものです。

- 4 そのうえ神も、しるしと不思議と様々な力あるわざにより、また、みこころにしたがって聖霊が分け与えてくださる賜物によって、救いを証ししてくださいました。
- 5 というのも、神は、私たちが語っている来たるべき世を、御使いたちに従わせたのではないからです。
- 6 ある箇所、ある人がこう証ししています。「人とは何ものなのでしょう。あなたがこれを心に留められるとは。人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたがこれを顧みてくださるとは。
- 7 あなたは、人を御使いより わずかの間低いものとし、これに栄光と誉れの冠をかぶらせ、
- 8 万物を彼の足の下に置かれました。」神は、万物を人の下に置かれたとき、彼に従わないものを何も残されませんでした。それなのに、今なお私たちは、すべてのものが人の下に置かれているのを見てはいません。
- 9 ただ、御使いよりもわずかの間低くされた方、すなわちイエスのことは見ています。イエスは死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠を受けられました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。
- 10 多くの子たちを栄光に導くために、彼らの救いの創始者を多くの苦しみを通して完全な者とされたのは、万物の存在の目的であり、また原因でもある神に、ふさわしいことであったのです。
- 11 聖とする方も、聖とされる者たちも、みな一人の方から出ています。それゆえ、イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥とせずに、こう言われます。
- 12 「わたしは、あなたの御名を兄弟たちに語り告げ、会衆の中であなたを賛美しよう。」
- 13 また、「わたしはこの方に信頼を置く」と言い、さらに、「見よ。わたしと、神がわたしに下さった子たち」と言われます。
- 14 そういふわけで、子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、
- 15 死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした。
- 16 当然ながら、イエスは御使いたちを助け出すのではなく、アブラハムの子孫を助け出してくださいます。
- 17 したがって、神に関わる事柄について、あわれみ深い、忠実な大祭司となるために、イエスはすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりません。それで民の罪の宥めがなされたのです。
- 18 イエスは、自ら試みを受けて苦しまれたからこそ、試みられている者たちを助けることができるのです。

第3章

- 1 ですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちが告白する、使徒であり大祭司であるイエスのことを考えなさい。
- 2 モーセが神の家全体の中で忠実であったのと同様に、イエスはご自分を立てた方に対して忠実でした。

- 3 家よりも、家を建てる人が大いなる榮譽を持つと同じように、イエスはモーセよりも大いなる栄光を受けるにふさわしいとされました。
- 4 家はそれぞれだれかが建てるのですが、すべてのものを造られたのは神です。
- 5 モーセは、後に語られることを証しするために、神の家全体の中でもべとして忠実でした。
- 6 しかしキリストは、御子として神の家を治めることに忠実でした。そして、私たちが神の家です。もし確信と、希望による誇りを持ち続けさえすれば、そうなのです。
- 7 ですから、聖霊が言われるとおりです。「今日、もし御声を聞くなら、
- 8 あなたがたの心を頑なにしてはならない。荒野での試みの日に 神に逆らったときのように。
- 9 あなたがたの先祖はそこでわたしを試み、わたしを試し、四十年の間、わたしのわざを見た。
- 10 だから、わたしはその世代に憤って言った。『彼らは常に心が迷っている。彼らはわたしの道を知らない。』
- 11 わたしは怒りをもって誓った。『彼らは決して、わたしの安息に入れぬ。』」
- 12 兄弟たち。あなたがたのうちに、不信仰な悪い心になって、生ける神から離れる者がいないように気をつけなさい。
- 13 「今日」と言われている間、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされて頑まにならないようにしなさい。
- 14 私たちはキリストにあずかる者となっているのです。もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、です。
- 15 「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない。神に逆らったときのように」と言われているとおりです。
- 16 では、聞いていながら反抗したのは、だれでしたか。モーセに率いられてエジプトを出た、すべての者たちではありませんか。
- 17 神が四十年の間、憤っておられたのは、だれに対してですか。罪を犯して、荒野に屍をさらした者たちに対してではありませんか。
- 18 また、神がご自分の安息に入らせないと誓われたのは、だれに対してですか。ほかでもない、従わなかった者たちに対してではありませんか。
- 19 このように、彼らが安息に入れなかったのは、不信仰のためであったことが分かります。

第4章

- 1 こういうわけで、私たちは恐れる心を持つてはいませんか。神の安息に入るための約束がまだ残っているのに、あなたがたのうちのだれかが、そこに入れなかったということのないようにしましょう。
- 2 というのも、私たちにも良い知らせが伝えられていて、あの人たちと同じなのです。けれども彼らには、聞いたみことばが益となりませんでした。みことばが、聞いた人たちに信仰によって結びつけられなかったからです。
- 3 信じた私たちは安息に入るのですが、「わたしは怒りをもって誓った。『彼らは決して、わたしの安息に入れぬ。』」と神が言われたとおりなのです。もっとも、世界の基が据えられたときから、みわざはすでに成し遂げられています。

- 4 なぜなら、神は第七日について、あるところで「そして神は、第七日に、すべてのわざを終えて休まれた」と言われ、
- 5 そのうえで、この箇所です、「彼らは決して、わたしの安息に入れなさい」と言われたからです。
- 6 ですから、その安息に入る人々がまだ残っていて、また、以前に良い知らせを聞いた人々が不従順のゆえに入れなかったのです、
- 7 神は再び、ある日を「今日」と定め、長い年月の後、前に言われたのと同じように、ダビデを通して、「今日、もし御声を聞くなら、あなたがたの心を頑なにしてはならない」と語られたのです。
- 8 もしヨシュアが彼らに安息を与えたのであれば、神はその後に別の日のことを話されることはなかったでしょう。
- 9 したがって、安息日の休みは、神の民のためにまだ残されています。
- 10 神の安息に入る人は、神がご自分のわざを休まれたように、自分のわざを休むのです。
- 11 ですから、だれも、あの不従順の悪い例に倣って落伍しないように、この安息に入るように努めようではありませんか。
- 12 神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやかりごとを見分けることができます。
- 13 神の御前にあらわでない被造物はありません。神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。この神に対して、私たちは申し開きをするのです。
- 14 さて、私たちには、もろもろの天を通られた、神の子イエスという偉大な大祭司がおられるのですから、信仰の告白を堅く保とうではありませんか。
- 15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでした、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。
- 16 ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

第5章

- 1 大祭司はみな、人々の中から選ばれ、人々のために神に仕えるように、すなわち、ささげ物といけにえを罪のために献げるように、任命されています。
- 2 大祭司は自分自身も弱さを身にまとっているのです、無知で迷っている人々に優しく接することができます。
- 3 また、その弱さのゆえに、民のためだけでなく、自分のためにも、罪のゆえにささげ物を献げなければなりません。
- 4 また、この栄誉は自分で得るのではなく、アロンがそうであったように、神に召されて受けるのです。
- 5 同様にキリストも、大祭司となる栄誉を自分で得たのではなく、「あなたはわたしの子。わたしが今日、あなたを生んだ」と語りかけた方が、それをお与えになったのです。
- 6 別の箇所でも、「あなたは、メルキゼデクの例に倣い、とこしえに祭司である」と言っておられるとおりです。
- 7 キリストは、肉体をもって生きている間、自分を死から救い出すことができる方に向かって、大きな叫び声と涙をもって祈りと願いをささげ、その敬虔のゆえに聞き入れられました。

- 8 キリストは御子であられるのに、お受けになった様々な苦しみによって従順を学び、
- 9 完全な者とされ、ご自分に従うすべての人にとって永遠の救いの源となり、
- 10 メルキゼデクの例に倣い、神によって大祭司と呼ばれました。
- 11 このメルキゼデクについて、私たちには話すことがたくさんありますが、説き明かすことは困難です。あなたがたが、聞くことに対して鈍くなっているからです。
- 12 あなたがたは、年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神が告げたことばの初歩を、もう一度だれかに教えてもらう必要があります。あなたがたは固い食物ではなく、乳が必要になっています。
- 13 乳を飲んでいる者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。
- 14 固い食物は、善と悪を見分ける感覚を経験によって訓練された大人のものです。

第6章

- 1 ですから私たちは、キリストについての初歩の教えを後にして、成熟を目指して進もうではありませんか。死んだ行いからの回心、神に対する信仰、
- 2 きよめの洗いについての教えと手を置く儀式、死者の復活と永遠のさばきなど、基礎的なことをもう一度やり直したりしないようにしましょう。
- 3 神が許されるなら、先に進みましょう。
- 4 一度光に照らされ、天からの賜物を味わい、聖霊にあずかる者となって、
- 5 神のすばらしいみことばと、来たるべき世の力を味わったうえで、
- 6 墮落してしまうなら、そういう人たちをもう一度悔い改めに立ち返らせることはできません。彼らは、自分で神の子をもう一度十字架にかけて、さらしものにする者たちだからです。
- 7 たびたび降り注ぐ雨を吸い込んで、耕す人たちに有用な作物を生じる土地は、神の祝福にあずかりますが、
- 8 茨やあざみを生えさせる土地は無用で、やがてのろわれ、最後は焼かれてしまうのです。
- 9 だが、愛する者たち。私たちはこのように言うてはいますが、あなたがたについては、もっと良いこと、救いにつながることを確信しています。
- 10 神は不公平な方ではありませんから、あなたがたの働きや愛を忘れてたりなさいません。あなたがたは、これまで聖徒たちに仕え、今も仕えることによって、神の御名のために愛を示しました。
- 11 私たちが切望するのは、あなたがた一人ひとりが同じ熱心さを示して、最後まで私たちの希望について十分な確信を持ち続け、
- 12 その結果、怠け者とならずに、信仰と忍耐によって約束のものを受け継ぐ人たちに倣う者となることです。
- 13 神は、アブラハムに約束する際、ご自分より大いなるものにかけて誓うことができなかつたので、ご自分にかけて誓い、
- 14 「確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたを大いに増やす」と言われました。
- 15 このようにして、アブラハムは忍耐の末に約束のものを得たのです。
- 16 確かに、人間は自分より大いなるものにかけて誓います。そして、誓いはすべての論争を終わらせる保証となります。

- 17 そこで神は、約束の相続者たちに、ご自分の計画が変わらないことをさらにはっきり示そうと思ひ、誓いをもって保証されました。
- 18 それは、前に置かれている希望を捕らえようとして逃れて来た私たちが、約束と誓いという変わらない二つのものによって、力強い励ましを受けるためです。その二つについて、神が偽ることはあり得ません。
- 19 私たちが持っているこの希望は、安全で確かな、たましいの錨のようなものであり、また幕の内側にまで入って行くものです。
- 20 イエスは、私たちのために先駆けとしてそこに入り、メルキゼデクの例に倣って、とこしえに大祭司となられたのです。

第7章

- 1 このメルキゼデクはサレムの王で、いと高き神の祭司でしたが、アブラハムが王たちを打ち破って帰るのを迎えて祝福しました。
- 2 アブラハムは彼に、すべての物の十分の一を分け与えました。彼の名は訳すと、まず「義の王」、次に「サレムの王」、すなわち「平和の王」です。
- 3 父もなく、母もなく、系図もなく、生涯の初めもなく、いのちの終わりもなく、神の子に似た者とされて、いつまでも祭司としてとどまっているのです。
- 4 さて、その人がどんなに偉大であったかを考えてみなさい。族長であるアブラハムでさえ、彼に一番良い戦利品の十分の一を与えました。
- 5 レビの子らの中で祭司職を受ける者たちは、同じアブラハムの子孫であるのに、民から、すなわち自分の兄弟たちから、十分の一を徴収するように、律法で命じられています。
- 6 ところが、レビの子らの系図につながっていない者が、アブラハムから十分の一を受け取り、約束を受けたアブラハムを祝福しました。
- 7 言うまでもなく、より劣った者が、よりすぐれた者から祝福を受けるものです。
- 8 十分の一を受けているのは、一方では、死ぬべき人たちですが、他方では、生きていと証しされている人です。
- 9 言うならば、十分の一を受け取るレビでさえ、アブラハムを通して十分の一を納めたのでした。
- 10 というのは、メルキゼデクがアブラハムを迎えたとき、レビはまだ父の腰の中にいたからです。
- 11 民はレビ族の祭司職に基づいて律法を与えられました。もしその祭司職によって完全さに到達できたのなら、それ以上何の必要があって、アロンに倣ってではなく、メルキゼデクに倣ってと言われる、別の祭司が立てられたのでしょうか。
- 12 祭司職が変われば、必ず律法も変わらなければなりません。
- 13 私たちがこれまで語ってきた方は、祭壇に仕える者が出たことのない、別の部族に属しておられます。
- 14 私たちの主がユダ族から出られたことは明らかですが、この部族について、モーセは祭司に関することを何も述べていないのです。
- 15 もしメルキゼデクと同じような、別の祭司が立つなら、以上のことはますます明らかになります。

- 16 その祭司は、肉についての戒めである律法にはよらず、朽ちることのない、いのちの力によって祭司となったのです。
- 17 この方について、こう証しされています。「あなたは、メルキゼデクの例に倣い、とこしえに祭司である。」
- 18 一方で、前の戒めは、弱く無益なために廃止され、
- 19 一律法は何も全うしなかったのです—もう一方では、もっとすぐれた希望が導き入れられました。これによって私たちは神に近づくのです。
- 20 また、神による誓いなしではありません。レビの子らの場合は、神による誓いなしに祭司となっていますが、
- 21 この方は、ご自分に対して言われた神の誓いによって祭司とられました。「主は誓われた。思い直されることはない。『あなたはとこしえに祭司である。』」
- 22 その分、イエスは、もっとすぐれた契約の保証とられたのです。
- 23 また、レビの子らの場合は、死ということがあるために、務めにいつまでもとどまることができず、大勢の者が祭司となっていますが、
- 24 イエスは永遠に存在されるので、変わることはない祭司職を持っておられます。
- 25 したがってイエスは、いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができになります。
- 26 このような方、敬虔で、悪も汚れもなく、罪人から離され、また天よりも高く上げられた大祭司こそ、私たちにとってまさに必要な方です。
- 27 イエスは、ほかの大祭司たちのように、まず自分の罪のために、次に民の罪のために、毎日いけにえを献げる必要はありません。イエスは自分自身を献げ、ただ一度でそのことを成し遂げられたからです。
- 28 律法は、弱さを持つ人間たちを大祭司に立てますが、律法の後から来た誓いのみことばは、永遠に完全な者とされた御子を立てるのです。

第8章

- 1 以上述べてきたことの要点は、私たちにはこのような大祭司がおられるということです。この方は天におられる大いなる方の御座の右に座し、
- 2 人間によってではなく、主によって設けられた、まことの幕屋、聖所で仕えておられます。
- 3 大祭司はみな、ささげ物といけにえを献げるために任命されています。したがって、この大祭司も何か献げる物を持っていなければなりません。
- 4 もしこの方が地上におられたなら、祭司であることは決してなかったでしょう。律法に代わってささげ物をする祭司たちがいるからです。
- 5 この祭司たちは、天にあるものの写しと影に仕えています。それは、モーセが幕屋を設営しようとしたときに、御告げを受けたとおりのものです。神は、「よく注意して、山であなたに示された型どおりに、すべてのものを作らなければならない」と言われました。
- 6 しかし今、この大祭司は、よりすぐれた契約の仲介者であるだけに、その分、はるかにすぐれた奉仕を得ておられます。その契約は、よりすぐれた約束に基づいて制定されたものです。
- 7 もしあの初めの契約が欠けのないものであったなら、第二の契約が必要になる余地はなかったはずですが。

- 8 神は人々の欠けを責めて、こう言われました。「見よ、その時代が来る。――主のことは――そのとき、わたしはイスラエルの家、ユダの家との新しい契約を実現させる。
- 9 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。彼らはわたしの契約にとどまらなかったで、わたしも彼らを顧みなかった。――主のことは――
- 10 これらの日の後に、わたしが イスラエルの家と結ぶ契約はこうである。――主のことは――わたしは、わたしの律法を彼らの思いの中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。
- 11 彼らはもはや、それぞれ仲間に、あるいはそれぞれ兄弟に、『主を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、小さい者から大きい者まで、わたしを知るようになるからだ。
- 12 わたしが彼らの不義にあわれみをかけ、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」
- 13 神は、「新しい契約」と呼ぶことで、初めの契約を古いものとされました。年を経て古びたものは、すぐに消えて行くのです。

第9章

- 1 さて、初めの契約にも、礼拝の規定と地上の聖所がありました。
- 2 すなわち、第一の幕屋が設けられ、そこには燭台と机と臨在のパンがありました。それが聖所と呼ばれる場所です。
- 3 また、第二の垂れ幕のうしろには、至聖所と呼ばれる幕屋があり、
- 4 そこには金の香壇と、全面を金でおおわれた契約の箱があり、箱の中には、マナの入った金の壺、芽を出したアロンの杖、契約の板がありました。
- 5 また、箱の上で、栄光のケルビムが「宥めの蓋」をおおっていました。しかし、これらについて、今は一つ一つ述べることはできません。
- 6 さて、これらの物が以上のように整えられたうえで、祭司たちはいつも第一の幕屋に入って、礼拝を行います。
- 7 しかし、第二の幕屋には年に一度、大祭司だけが入ります。そのとき、自分のため、また民が知らずに犯した罪のために献げる血を携えずに、そこに入るようなことはありません。
- 8 聖霊は、次のことを示しておられます。すなわち、第一の幕屋が存続しているかぎり、聖所への道がまだ明らかにされていないということです。
- 9 この幕屋は今の時を示す比喻です。それにしたがって、ささげ物といけにえが献げられますが、それらは礼拝する人の良心を完全にすることができません。
- 10 それらは、ただ食物と飲み物と種々の洗いに関するもので、新しい秩序が立てられる時まで課せられた、からだに関する規定にすぎません。
- 11 しかしキリストは、すでに実現したすばらしい事柄の大祭司として来られ、人の手で造った物でない、すなわち、この被造世界の物でない、もっと偉大な、もっと完全な幕屋を通り、
- 12 また、雄やぎと子牛の血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました。
- 13 雄やぎと雄牛の血や、若い雌牛の灰を汚れた人々に振りかけると、それが聖なるものとする働きをして、からだをきよいものにするのなら、

- 14 まして、キリストが傷のないご自分を、とこしえの御霊によって神にお献げになったその血は、どれだけ私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者にするのでしょうか。
- 15 キリストは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約のときの違反から贖い出すための死が実現して、召された者たちが、約束された永遠の資産を受け継ぐためです。
- 16 遺言には、遺言者の死亡証明が必要です。
- 17 遺言は人が死んだとき初めて有効になるのであって、遺言者が生きている間には、決して効力を持ちません。
- 18 ですから、初めの契約も、血を抜きに成立したではありません。
- 19 モーセは、律法にしたがってすべての戒めを民全体に語った後、水と緋色の羊の毛とヒソブとともに、子牛と雄やぎの血を取って、契約の書自体にも民全体にも振りかけ、
- 20 「これは、神があなたがたに対して命じられた契約の血である」と言いました。
- 21 また彼は、幕屋と、礼拝に用いるすべての用具にも同様に血を振りかけました。
- 22 律法によれば、ほとんどすべてのものは血によってきよめられます。血を流すことがなければ、罪の赦しはありません。
- 23 ですから、天にあるものの写しは、これらのものによってきよめられる必要がありますが、天上にある本体そのものは、それ以上にすぐれたいけにえによって、きよめられる必要がありません。
- 24 キリストは、本物の模型にすぎない、人の手で造られた聖所に入られたのではなく、天そのものに入られたのです。そして今、私たちのために神の御前に現れてくださいます。
- 25 それも、年ごとに自分の血でない血を携えて聖所に入る大祭司とは違い、キリストはご自分を何度も献げるようなことはなさいません。
- 26 もし同じだとしたら、世界の基が据えられたときから、何度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかし今、キリストはただ一度だけ、世々の終わりに、ご自分をいけにえとして罪を取り除くために現れてくださいました。
- 27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、
- 28 キリストも、多くの人の罪を負うために一度ご自分を献げ、二度目には、罪を負うためではなく、ご自分を待ち望んでいる人々の救いのために現れてくださいます。

第10章

- 1 律法には来たるべき良きものの影はあっても、その実物はありません。ですから律法は、年ごとに絶えず献げられる同じいけにえによって神に近づく人々を、完全にすることができません。
- 2 それができたら、礼拝する人たちは一度できよめられて、もはや罪を意識することがなくなるので、いけにえを献げることは終わったはずです。
- 3 ところがむしろ、これらのいけにえによって罪が年ごとに思い出されるのです。
- 4 雄牛と雄やぎの血は罪を除くことができないからです。
- 5 ですからキリストは、この世界に来てこう言われました。「あなたは、いけにえやささげ物をお求めにならないで、わたしに、からだを備えてくださいました。

- 6 全焼のささげ物や罪のきよめのささげ物を あなたは、お喜びにはなりませんでした。
- 7 そのとき、わたしは申しました。『今、わたしはここに来ております。巻物の書にわたしのことが書いてあります。神よ、あなたのみこころを行うために。』」
- 8 以上のとおり、キリストは「あなたは、いけにえやささげ物、全焼のささげ物や罪のきよめのささげ物、すなわち、律法にしたがって献げられる、いろいろな物を望まず、またそれらをお喜びにはなりませんでした」と言い、
- 9 それから、「今、わたしはあなたのみこころを行うために来ました」と言われました。第二のものを立てるために、初めのものを廃止されるのです。
- 10 このみこころにしたがって、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけ献げられたことにより、私たちは聖なるものとされています。
- 11 さらに、祭司がみな、毎日立って礼拝の務めをなし、同じいけにえを繰り返し献げても、それらは決して罪を除き去ることができませんが、
- 12 キリストは、罪のために一つのいけにえを献げた後、永遠に神の右の座に着き、
- 13 あとは、敵がご自分の足台とされるのを待っておられます。
- 14 なぜなら、キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって永遠に完成されたからです。
- 15 聖霊もまた、私たちに証ししておられます。というのも、
- 16 「これらの日の後に、わたしが彼らと結ぶ契約はこうである。—主のことば—わたしは、わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いにこれを書き記す」と言った後で、
- 17 「わたしは、もはや彼らの罪と不法を思い起こさない」と言われるからです。
- 18 罪と不法が赦されるところでは、もう罪のきよめのささげ物はいりません。
- 19 こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。
- 20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。
- 21 また私たちには、神の家を治める、この偉大な祭司がおられるのですから、
- 22 心に血が振りかけられて、邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われ、全き信仰をもって真心から神に近づこうではありませんか。
- 23 約束してくださった方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。
- 24 また、愛と善行を促すために、互いに注意を払おうではありませんか。
- 25 ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。
- 26 もし私たちが、真理の知識を受けた後、進んで罪にとどまり続けるなら、もはや罪のきよめのためにはいけにえは残されておらず、
- 27 ただ、さばきと、逆らう者たちを焼き尽くす激しい火を、恐れながら待つしかありません。
- 28 モーセの律法を拒否する者は、二人または三人の証人のことばに基づいて、あわれみを受けることなく死ぬこととなります。
- 29 まして、神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものと見なし、恵みの御霊を侮る者は、いかに重い処罰に値するかが分かるでしょう。

- 30 私たちは、「復讐はわたしのもの、わたしが報復する。」また、「主は御民をさばかれる」と言われる方を知っています。
- 31 生ける神の手の中に陥ることは恐ろしいことです。
- 32 あなたがたは、光に照らされた後で苦難との厳しい戦いに耐えた、初めの日々を思い起こさない。
- 33 嘲られ、苦しい目にあわされ、見せ物にされたこともあれば、このような目にあった人たちの同志となったこともあります。
- 34 あなたがたは、牢につながれている人々と苦しみをともにし、また、自分たちにはもっとすぐれた、いつまでも残る財産があることを知っていたので、自分の財産が奪われても、それを喜んで受け入れました。
- 35 ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはいけません。その確信には大きな報いがあります。
- 36 あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です。
- 37 「もうしばらくすれば、来たるべき方が来られる。遅れることはない。
- 38 わたしの義人は信仰によって生きる。もし恐れ退くなら、わたしの心は彼を喜ばない。」
- 39 しかし私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。

第11章

- 1 さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。
- 2 昔の人たちは、この信仰によって称賛されました。
- 3 信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、その結果、見えるものが、目に見えるものからできたのではないことを悟ります。
- 4 信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神に献げ、そのいけにえによって、彼が正しい人であることが証しされました。神が、彼のささげ物を良いささげ物だと証ししてくださいましたからです。彼は死にましたが、その信仰によって今もなお語っています。
- 5 信仰によって、エノクは死を見ることがないように移されました。神が彼を移されたので、いなくなりました。彼が神に喜ばれていたことは、移される前から証しされていたのです。
- 6 信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならぬのです。
- 7 信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄について神から警告を受けたときに、恐れかしこんで家族の救いのために箱舟を造り、その信仰によって世を罪ありとし、信仰による義を受け継ぐ者となりました。
- 8 信仰によって、アブラハムは相続財産として受け取るべき地に出て行くようにと召しを受けたときに、それに従い、どこに行くのかを知らずに出て行きました。
- 9 信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束をともに受け継ぐイサクやヤコブと天幕生活をしました。
- 10 堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都の設計者、また建設者は神です。

- 11 アブラハムは、すでにその年を過ぎた身であり、サラ自身も不妊の女であったのに、信仰によって、子をもうける力を得ました。彼が、約束してくださった方を真実な方と考えたからです。
- 12 こういうわけで、一人の、しかも死んだも同然の人から、天の星のように、また海辺の数えきれない砂のように数多くの子孫が生まれたのです。
- 13 これらの人たちはみな、信仰の人として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました。
- 14 そのように言っている人たちは、自分の故郷を求めていることを明らかにしています。
- 15 もし彼らが思っていたのが、出て来た故郷だったなら、帰る機会はあったでしょう。
- 16 しかし実際には、彼らが憧れていたのは、もっと良い故郷、すなわち天の故郷でした。ですから神は、彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。神が彼らのために都を用意されたのです。
- 17 信仰によって、アブラハムは試みを受けたときにイサクを献げました。約束を受けていた彼が、自分のただひとりの子を献げようとしたのです。
- 18 神はアブラハムに「イサクにあって、あなたの子孫が起こされる」と言われましたが、
- 19 彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできると考えました。それで彼は、比喩的に言えば、イサクを死者の中から取り戻したのです。
- 20 信仰によって、イサクはやがて起こることについて、ヤコブとエサウを祝福しました。
- 21 信仰によって、ヤコブは死ぬときに、ヨセフの息子たちをそれぞれ祝福し、また自分の杖の上に寄りかかって礼拝しました。
- 22 信仰によって、ヨセフは臨終のときに、イスラエルの子らの脱出について語り、自分の遺骸について指示を与えました。
- 23 信仰によって、モーセは生まれてから三か月の間、両親によって隠されていました。彼らがその子のかわいいのを見、また、王の命令を恐れなかったからです。
- 24 信仰によって、モーセは成人したときに、ファラオの娘の息子と呼ばれることを拒み、
- 25 はかない罪の楽しみにふけるよりも、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。
- 26 彼は、キリストのゆえに受ける辱めを、エジプトの宝にまさる大きな富と考えました。それは、与えられる報いから目を離さなかったからでした。
- 27 信仰によって、彼は王の憤りを恐れることなくエジプトを立ち去りました。目に見えない方を見ているようにして、忍び通したのです。
- 28 信仰によって、彼は長子を滅ぼす者が自分たちに触れることがないように、過越の食事をし、血を振りかけました。
- 29 信仰によって、人々は乾いた陸地に行くのと同じように紅海を渡りました。エジプト人たちは同じことをしようとしたましたが、水に呑み込まれてしまいました。
- 30 信仰によって、人々が七日間エリコの周囲を回ると、その城壁は崩れ落ちました。
- 31 信仰によって、遊女ラハブは、偵察に来た人たちを穏やかに受け入れたので、不従順な者たちと一緒に滅びずにすみました。
- 32 これ以上、何を言いましょうか。もし、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル、預言者たちについても語れば、時間が足りないでしょう。

- 33 彼らは信仰によって、国々を征服し、正しいことを行い、約束のものを手に入れ、獅子の口をふさぎ、
- 34 火の勢いを消し、剣の刃を逃れ、弱い者なのに強くされ、戦いの勇士となり、他国の陣営を敗走させました。
- 35 女たちは、死んだ身内の者たちをよみがえらせていただきました。また、ほかの人たちは、もっとすぐれたよみがえりを得るために、釈放されることを拒んで拷問を受けました。
- 36 また、ほかの人たちは嘲られ、むちで打たれ、さらに鎖につながれて牢に入れられる経験をし、
- 37 また、石で打たれ、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊ややぎの皮を着て歩き回り、困窮し、圧迫され、虐待されました。
- 38 この世は彼らにふさわしくありませんでした。彼らは荒野、山、洞穴、地の穴をさまよいました。
- 39 これらの人たちはみな、その信仰によって称賛されましたが、約束されたものを手に入れることはありませんでした。
- 40 神は私たちのために、もっとすぐれたものを用意しておられたので、私たちを抜きにして、彼らが完全な者とされることはなかったのです。

第12章

- 1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、一切の重荷とまとわりつく罪を捨てて、自分の前に置かれている競走を、忍耐をもって走り続けようではありませんか。
- 2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。
- 3 あなたがたは、罪人たちの、ご自分に対するこのような反抗を耐え忍ばれた方のことを考えなさい。あなたがたの心が元気を失い、疲れ果ててしまわないようにするためです。
- 4 あなたがたは、罪と戦って、まだ血を流すまで抵抗したことはありません。
- 5 そして、あなたがたに向かって子どもたちに対するように語られた、この励ましのことばを忘れていません。「わが子よ、主の訓練を軽んじてはならない。主に叱られて気落ちしてはならない。
- 6 主はその愛する者を訓練し、受け入れるすべての子に、むちを加えられるのだから。」
- 7 訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が訓練しない子がいるのでしょうか。
- 8 もしあなたがたが、すべての子が受けている訓練を受けていないとしたら、私生児であって、本当の子ではありません。
- 9 さらに、私たちには肉の父がいて、私たちが訓練しましたが、私たちはその父たちを尊敬していました。それなら、なおのこと、私たちは霊の父に服従して生きるべきではないでしょうか。
- 10 肉の父はわずかの間、自分が良いと思うことにしたがって私たちが訓練しましたが、霊の父は私たちの益のために、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして訓練されるのです。

- 11 すべての訓練は、そのときは喜ばしいものではなく、かえって苦しく思われるものですが、後になると、これによって鍛えられた人々に、義という平安の実を結ばせます。
- 12 ですから、弱った手と衰えた膝をまっすぐにしなさい。
- 13 また、あなたがたは自分の足のために、まっすぐな道を作りなさい。足の不自由な人が踏み外すことなく、むしろ癒やされるためです。
- 14 すべての人との平和を追い求め、また、聖さを追い求めなさい。聖さがなければ、だれも主を見ることができません。
- 15 だれも神の恵みから落ちないように、また、苦い根が生え出て悩ませたり、これによって多くの人汚されたりしないように、気をつけなさい。
- 16 また、だれも、一杯の食物と引き替えに自分の長子の権利を売ったエサウのように、淫らな者、俗悪な者にならないようにしなさい。
- 17 あなたがたが知っているとおり、彼は後になって祝福を受け継ぎたいと思ったのですが、退けられました。涙を流して求めても、彼には悔い改めの機会が残っていませんでした。
- 18 あなたがたが近づいているのは、手でさわられるもの、燃える火、黒雲、暗闇、嵐、
- 19 ラッパの響き、ことばのとどろきではありません。そのことばのとどろきを聞いた者たちは、それ以上一言も自分たちに語らないでくださいと懇願しました。
- 20 彼らは、「たとえ獣でも、山に触れるものは石で打ち殺されなければならない」という命令に耐えることができませんでした。
- 21 また、その光景があまりに恐ろしかったので、モーセは「私は怖くて震える」と言いました。
- 22 しかし、あなたがたが近づいているのは、シオンの山、生ける神の都である天上のエルサレム、無数の御使いたちの喜びの集い、
- 23 天に登録されている長子たちの教会、すべての人のさばき主である神、完全な者とされた義人たちの霊、
- 24 さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る、注ぎかけられたイエスの血です。
- 25 あなたがたは、語っておられる方を拒まないように気をつけなさい。地上において、警告を与える方を拒んだ彼らが処罰を免れなかったとすれば、まして、天から警告を与える方に私たちが背を向けるなら、なおのこと処罰を免れられません。
- 26 あのかは御声が地を揺り動かしましたが、今は、こう約束しておられます。「もう一度、わたしは、地だけではなく天も揺り動かす。」
- 27 この「もう一度」ということばは、揺り動かされないものが残るために、揺り動かされるもの、すなわち造られたものが取り除かれることを示しています。
- 28 このように揺り動かされない御国を受けるのですから、私たちは感謝しようではありませんか。感謝しつつ、敬虔と恐れをもって、神に喜ばれる礼拝をささげようではありませんか。
- 29 私たちの神は焼き尽くす火なのです。

第13章

- 1 兄弟愛をいつも持っていなさい。

- 2 旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、知らずに御使いたちをもてなしました。
- 3 牢につながれている人々を、自分も牢にいる気持ちで思いやりなさい。また、自分も肉体を持っているのですから、虐げられている人々を思いやりなさい。
- 4 結婚がすべての人の間で尊ばれ、寢床が汚されることのないようにしなさい。神は、淫行を行う者と姦淫を行う者をさばかれるからです。
- 5 金銭を愛する生活をせずに、今持っているもので満足しなさい。主ご自身が「わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨てない」と言われたからです。
- 6 ですから、私たちは確信をもって言います。「主は私の助け手。私は恐れない。人が私に何ができるだろうか。」
- 7 神のことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、覚えていなさい。彼らの生き方から生まれたものをよく見て、その信仰に倣いなさい。
- 8 イエス・キリストは、昨日も今日も、とこしえに変わることがありません。
- 9 様々な異なった教えによって迷わされてはいけません。食物の規定によらず、恵みによって心を強くするのは良いことです。食物の規定にしたがって歩んでいる者たちは、益を得ませんでした。
- 10 私たちには一つの祭壇があります。幕屋で仕えている者たちには、この祭壇から食べる権利がありません。
- 11 動物の血は、罪のきよめのささげ物として、大祭司によって聖所の中に持って行かれますが、からだは宿営の外で焼かれるのです。
- 12 それでイエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。
- 13 ですから私たちは、イエスの辱めを身に負い、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。
- 14 私たちは、いつまでも続く都をこの地上に持っているのではなく、むしろ来たるべき都を求めているのです。
- 15 それなら、私たちはイエスを通して、賛美のいけにえ、御名をたたえる唇の果実を、絶えず神にささげようではありませんか。
- 16 善を行うことと、分かち合うことを忘れてはいけません。そのようないけにえを、神は喜ばれるのです。
- 17 あなたがたの指導者たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人たちは神に申し開きをする者として、あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。ですから、この人たちが喜んでそのことをし、嘆きながらすることにならないようにしなさい。そうでないと、あなたがたの益にはならないからです。
- 18 私たちのために祈ってください。私たちは正しい良心を持っていると確信しており、何事についても正しく行動したいと思っているからです。
- 19 私があなたがたのもとに早く戻れるように、なおいっそう祈ってくださるよう、お願いいたします。
- 20 永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを、死者の中から導き出された平和の神が、

- 21 あらゆる良いものをもって、あなたがたを整え、みこころを行わせてくださいますように。また、御前でみこころにかなうことを、イエス・キリストを通して、私たちのうちに行ってくださいように。栄光が世々限りなくイエス・キリストにありますように。アーメン。
- 22 兄弟たちよ、あなたがたにお願いします。このような勧めのことばを耐え忍んでください。私は手短に書いたのです。
- 23 私たちの兄弟テモテが釈放されたことを、お知らせします。もし彼が早く来れば、私は彼と一緒にあなたがたに会えるでしょう。
- 24 あなたがたのすべての指導者たち、また、すべての聖徒たちによろしく。イタリアから来た人たちが、あなたがたによろしくと言っています。
- 25 恵みがあなたがたすべてとともにありますように。